

## 西部ブロック勉強会報告書(平成24年-5②)

日時	平成24年10月29日(月曜日) 19:00～21:00
場所	広島市中区地域福祉センター 大会議室2
参加施設	廿日市野村病院、大野浦病院、矢野おりづる園、JA広島総合病院、荒木脳神経外科病院 (合計:14名)
<p>(3)Bグループ:障害・問題点を説明する。正しく理解してもらう為には、繰り返し説明することが必要と 思っ、説明を組み立てる。 keyになる人にはST訓練を実際にみてもらう。実際に訓練をみるのが困難な場合は、 コミュニケーションのポイント・経過をノートに記載し、家族やスタッフにみてもらう。 ST側の「聞く姿勢」も大切であり、他のスタッフのアドバイスや意見を日頃から聞き入れ、 スタッフ間の関係づくりに努める。 担当者会議・カンファレンス等、目的を明確にしたうえで、参加してもらい。 病棟からも問題点を挙げてもらい、一緒に検討する。 院内・外への「失語症」啓蒙。</p> <p>(4)Cグループ:家族とのラポート形成が重要。家族の意見や考えを聞く時間をしっかりと、 信頼関係を築く。 ICで予後をしっかり説明し、リハビリテーションの重要性を理解してもらい。 病棟スタッフへの勉強会・パワーポイントでの説明にて、「失語症」へ関心をもってもらい。 病棟スタッフと一緒にリハビリに参加してもらい、協力関係を築きやすいのではないかと。</p> <p>4. まとめ(杉村先生より) 昔なら長期に介入できていたが、現在は各期ごと部分にわかれてきた。 その人をとりまくコミュニケーション環境がどのような場所なのかSTはしっかり把握する必要がある。 評価・訓練ができることだけでなく、どのようにマネージメントするかもSTにとって重要。 そこには、次の期につなげていくといくマネージメントも含まれる。 病院内でそれぞれ得意とするものも異なる為、説明やマネージメント等、得意な人材にまかせることも 必要かもしれない。</p> <p>Ⅲ. 反省・改善点</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 日程の変更があった。 →日程調整・会場予約を早めに行うよう努める。</li><li>2. 事前の広報不足もあり、参加者を集められなかった。 →勉強会案内の内容やレイアウトの工夫。</li></ol>	
次回日程	平成25年1月

文責:水戸裕香